

荒城の月でギター入門

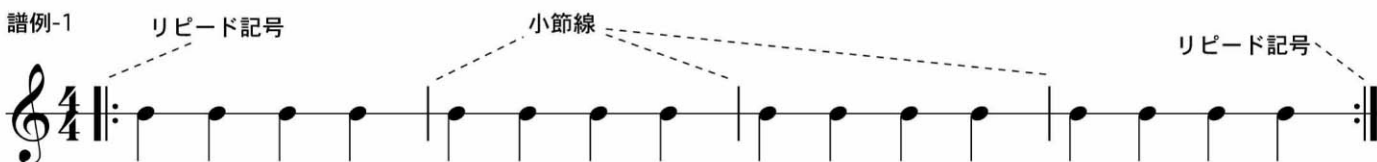
1、音を出してみましょう。(その-1)

- 楽譜の読み方やギターのかかえ方・ギターの各部分の名前など、気になることが少なくないと思いますが、とりあえず下の写真を参考にして音を出してみてください。
また、弦の“はじきかた(奏法)”に「アポヤンド」と「アルアイレ」の2通りがありますが、これも弦に触れる指が馴れたところに説明します。



*指の太さ・長さや、甲の幅は人によって違います。
これからの練習すべてにおいて、自分の手の負担が小さいフォームをさがすようにしましょう。

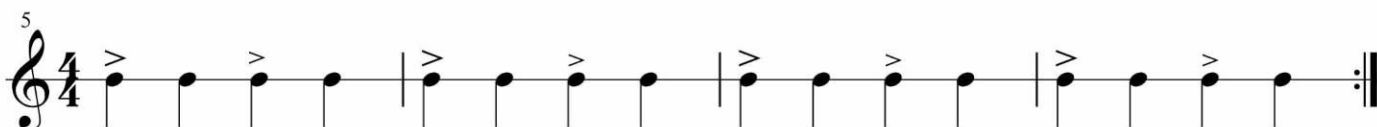
- 譜例-1の一線譜には、四分音符(黒玉に棒のついた音符)が等間隔で4小節書かれています。これは“4小節間、弦を等間隔ではじく”ことを意味しています。(縦線は小節線です)
どの指でどの弦をはじいてもいいですから、できるだけ同じ間隔で弦をはじいて下さい。



※最後の小節線のところ(段のおわり)にある記号は「リピード記号」といって、1小節目の向きの反対になっている記号までもどって終りまで弾くことを指示する記号です。一般的には、拍子のある小節(はじめの小節)の反対向きの記号は省略されます。
演奏上は、1度くり返すとおわりになりますが、“等間隔ではじいている実感が持てるまで”くり返すのがいいでしょう。

こんどは、拍子をつけて弾いてみましょう。

- 音符(黒玉/符頭といいます)の上に付いている記号を「アクセント記号」といいます。1番目と3番目の音符に付いている記号の大きさが違います。記号の大きさに合わせて、強さ(音の大きさ)を変えてみてください。



*コツは、大きな疲れを感じる前に“休憩”することです。